完了報告書（平成 22 年度）

提出者　　土田　陽子

提出年月日　　2011 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文　**公立名門高等女学校の同窓会誌における理想的女性像の構築**

ー　和歌山市・京都市・神戸市との比較分析からー

英文 The Construction of An Ideal Woman Image in The Alumni Magazines of Prestige Girls' High Schools in Prewar Days ; Comparative Study of Wakayama City , Kyoto City and Kobe City

【メンバー構成】

研究代表者　　土田陽子

幹事　　土田陽子

メンバー

【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究は和歌山市、京都市、神戸市の公立名門高等女学校を分析対象とし、中央における女子教育政策や「良妻賢母」思想がいかにして地方に伝達され、卒業生たちに受容され実践されていたのかを明らかにすることで、公立名門高等女学校における理想的女性像を描き出すことを目的としている。分析対象校は、県立和歌山高等女学校（和高女）と京都府立第一高等女学校（府一）、兵庫県立第一神戸高等女学校（県一高女）とし、方法としては、1910 年代～30 年代における同窓会誌の内容分析を行う。

同窓会誌は同窓会組織が学校組織とともに編集作業を行い、在校生と卒業生に向けて発行する雑誌メディアであり、公的組織である学校側が発する情報と、卒業生たちの親密圏（家庭生活や交友関係）に関する情報の両方が掲載されている。この同窓会誌を素材として、次の記事内容に注目して分析を行いたい。まず１つめは、校長が述べる教育方針に関する記事と教育講演会の談話録である。なぜなら、学校側が目指すべき教育の方向性やあるべき女性像がここで議論されているからである。２つめは、卒業生たちによる通信消息と同窓会記事である。ここには、卒業生たちの暮らしぶりが中心に描かれており、親密圏（家庭生活や交友関係）の様子をうかがい知ることができるからである。

【活動の記録】

＜史料調査＞

2010 年 8 月 21 日　日本女子大学図書館　『鴨沂会雑誌』閲覧・コピー

2010 年 11 月 26 日　和洋女子大学図書館　『鴨沂会雑誌』閲覧・コピー

＜学会発表・報告会＞

2010 年 9 月「公立名門高等女学校の同窓会誌にみる『あるべき女性像』」日本教育社会学会第 62 回大会

2011 年２月「公立名門高等女学校の同窓会誌における理想的女性像の構築　ー和歌山市・京都市・神戸市との比較分析からー」2010 年度　ＧＣＯＥ研究成果報告会

【成果の概要】（800 字程度）
本研究では、関西地方の公立名門高等女学校における 1910 年代～40 年代初期までの同窓会誌を分析史料とし、女学校卒業後のあるべき姿について描き出そうとした。分析対象校は、県立和歌山高等女学校（和高女）と京都府立第一高等女学校（府一）を設定した。 分析に際しては、次の記事に注目することにした。１つめは「校長が述べる教育方針や雑感」「教育講演会の談話録」「学校教員や卒業生による寄稿文」である。なぜなら、これらの論説記事や講演会記事には学校側が目指すべき方向性や、社会情勢への対応の指針などが述べられているからである。２つめは、卒業生たちによる通信消息と同窓会記事である。ここには、卒業生たちの暮らしぶりが中心に描かれており、学校と同窓会側が誰の情報を卒業生たちに伝えたいと思っていたのかをうかがい知ることができるのである。分析資料となる同窓会誌は、和高女が『ぽぷら』第 2 号（1917）～10 号（1924 年）と『いしずゑ』13 号（1928 年）～24 号（1942 年）のうち 17 冊、府一は『鴨沂会雑誌』40 号（1917 年）～90 号（1942 年）のうちの 39 冊である。 研究結果としては、次の点が明らかになった。1910 年代～20 年代の和高女の同窓会誌には、科学的な知識に基づく家事や育児に関する記事が多くみられ、そこでは広く社会情勢を理解し、国家の一員であるという自覚や心構えをもつことの重要性が強調されていた。その際、見習うべき手本とされていたのが、西洋婦人のモダンな生活様式と社会での活躍の様子であった。しかしながら、1930 年代以降、自由で合理的で個人主義的な西洋文化は享楽的で利己主義であるとされ、否定されていった。一方、府一には、教養主義的な内容の記事が多くみられた。婦人運動に関しては、教育の機会均等のみが取り組むべき課題として取り上げられ、良妻賢母主義という基本理念から外れることなく女子教育の充実、発展が目指されていた。両校に共通して求められていた卒業後のあり方は、母校や社会のために尽くす姿勢であった。彼女たちは同窓会ネットワークのなかで組織化され、同窓会館設立や学校設立という目的のもと、バザーや音楽会開催という名門女学校卒業生にふさわしい正統的な意義ある無償労働を母校のために提供していたことが明らかになった。
【通信欄】

（研究代表者記入）

プロジェクト	□次世代　■次世代ユニット　□男女共同参画に資する調査研究	
経費	予算額　200 （千円）	実績額　191,348 円